

## 2013年3月期 連結決算について

2013年3月期(2012年度)連結決算は、東日本大震災の影響からの回復、本邦LCCの国内線新規就航等により2期ぶりの「増収増益」。当期純利益は2004年度の民営化以来、過去最高。

2014年3月期(2013年度)連結業績予想は、2013年夏ダイヤからのオープンスカイによる航空取扱量の増加等により前期比「増収増益」の見通し。

## 1. 航空取扱量について

区 分	2011年度	2012年度	増減①		2013年度	増減②	
	実績	実績	数量	%	見通し	数量	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
航空機発着回数(万回)	18.7	21.2	2.5	113.3	23.1	1.9	108.8
航空旅客数(万人)	2,885	3,343	458	115.9	3,522	179	105.3
航空貨物量(万トン)	193	192	△1	99.6	187	△5	97.5
給油量(万kl)	426	467	42	109.8	487	20	104.2

## (1)2012年度の実績【増減①】

- 航空機発着回数、航空旅客数及び給油量は、尖閣諸島問題、B787運航停止等の影響は一部あったものの、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響からの回復、本邦LCC2社の国内線新規就航等により、いずれも前年同期に比べ増加。
- 航空貨物量は、内外経済の低迷やメーカーの生産立地構造の変化等により輸出・輸入ともに減少したものの、成田空港を経由し三国間輸送する仮陸揚貨物が増加し、総量ではほぼ前年同期並み。

## (2)2013年度の見通し【増減②】

- 航空機発着回数、航空旅客数及び給油量は、2013年夏ダイヤからのオープンスカイによる航空会社の新規就航・増便や昨年度就航した本邦LCCの運航通年化等により、前期を上回る見通し。
- 航空貨物量は、欧州債務危機の影響の長期化や、メーカーの生産立地構造の変化等により、前期を下回る見通し。

## 2. 連結決算について

(単位:億円)

区 分	2011年度	2012年度	増減		2013年度	増減	
	実績	実績	金額	%	予想	金額	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
営業収益	1,735	1,892	156	109.0	1,923	30	101.6
営業利益	213	347	134	162.9	362	14	104.2
経常利益	131	275	144	209.8	293	17	106.3
当期純利益	35	153	117	431.0	165	11	107.7

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

## (1) 経営成績の概要

営業収益は1,892億円(前期比156億円の増加)、営業利益は347億円(同134億円の増加)、経常利益は275億円(同144億円の増加)、当期純利益は153億円(同117億円の増加)の「増収増益」

- 営業収益: 前期比 156億円の増収
- 営業利益: 前期比 134億円の増益
  - ▶ 空港運営事業: 航空機発着回数、航空旅客数及び給油量は、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から回復、本邦LCC2社の国内線就航等により増加し、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、給油施設使用料収入いずれも増加。営業収益は前期比10.0%増の1,074億円。営業利益は78億円(前期は15億円の営業損失)。
  - ▶ リテール事業: 航空旅客数の増加により、子会社の物販・飲食収入及びテナントからの構内営業料収入が増加。営業収益は前期比10.7%増の486億円。営業利益は前期比21.0%増の137億円。
  - ▶ 施設貸付事業: 事務室の新規貸付等により土地建物等貸付料収入が増加。営業収益は前期比2.7%増の301億円。営業利益は前期比10.6%増の127億円。
  - ▶ 鉄道事業: 成田スカイアクセスの線路使用料収入の増加等により、営業収益は前期比20.2%増の28億円。営業利益は410百万円(前期は31百万円の営業損失)。

## (2) 財政状態の概要

- ▶ 資産合計は、年間発着回数30万回への空港容量拡大に向けた27万回対応の施設整備等による資産の増加があったものの、減価償却が進んだことによる固定資産の減少等により前期末比2.4%減の8,811億円。
- ▶ 負債合計は、社債及び長期借入金の減少等により前期末比5.4%減の6,303億円。有利子債務残高は、前期末比5.3%減の5,080億円、平均金利は前期末比0.03ポイント低下し1.36%。無利子債務を加えた長期債務残高は、前期末比6.6%減の5,577億円。
- ▶ 純資産合計は、前期末比6.1%増の2,508億円。自己資本比率は、前期末の25.2%から27.4%へ増加。

## (3) キャッシュ・フローの概要

- フリー・キャッシュ・フローは425億円のキャッシュ・イン: 前期比75億円の増加
  - ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、給油施設使用料収入、物販・飲食収入、構内営業料収入が増加したこと等から前期比168億円増の696億円のキャッシュ・イン。
  - ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資のための支出が増加したこと等から前期比93億円増の270億円のキャッシュ・アウト。

## (4) 2013年度の連結業績予想

営業収益は1,923億円(前期比30億円の増加)、営業利益は362億円(同14億円の増加)、経常利益は293億円(同17億円の増加)、当期純利益は165億円(同11億円の増加)の「増収増益」の見通し

- ▶ 国際線着陸料の引下げ等はあるものの、オープンスカイによる航空会社の新規就航・増便等により、航空機発着回数、航空旅客数、給油量が前期を上回る見通しであることから、営業収益は増収、営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも増益を予想。

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。